



# 医療が必要な高齢者が安心して暮らせる 「医療対応型住宅」を展開

キャピタルメディカは、現在国内で病院17カ所、クリニック8カ所、高齢者施設6カ所、画像診断センター1カ所、健診センター1カ所の運営に携わっています。高齢者施設の運営は4年前に始めてまだまだ新参者ですが、居室数不足というマクロ数値に反して、かなり飽和した成熟業界であるな、と率直に感じています。そこで、当社らしい特徴を活かしたサービス提供はできないものだろうかと考え、医療処置が必要な高齢者向けの「医療対応型住宅」の展開に着手しています。

医療対応型とはいっても住宅であり、入居者は日常的に看護師による処置の必要な、「医療区分Ⅰ」ぐらいの方をイメージしています。市町村等による特定施設の公募もなかなか倍率が高いものですから、住宅型有料老人ホームに訪問介護と居宅介護支援事務所を併設し、さらに自前で訪問看護ステーションも併設しています。

昨年11月に岡山県岡山市でサービス付き高齢者向け住宅「アップルウッド西大寺」(60室)をオープンしましたが、入居者の平均介護度は4.2で、胃ろう、経鼻経管栄養、腹膜透析や末期ガンの方が大半を占めています。日中は看護師を13対1で配置し、そのほか喀痰吸引研修(1号)を受けたケアスタッフ9人を配置しています。入居者は、医療療養病床がある病院からの受け入れが多いと想定していましたが、意外と急性期病院からの受入れが多く、平成26年度診療報酬改定で在宅復帰率が要件となったことが影響しているのだと考えています。

このような住宅は同一エリアに数多く必要なものではないと思いますが、逆に数件のニーズは確実に見込めるものと考えています。今年11月には東寺山(千葉県千葉市/70室/住宅型有料老人ホーム)、来年3月には稲田堤(神奈川県川崎市/59室/住宅型有料老人ホーム)で医療対応型住宅を展開してまいります。東寺山では、先行して今年3月に訪問看護ステーションを新設し、在宅向けのサービス提供を開始していますが、居宅介護支援事務所・病院・クリニックなどから順調に利用者

をご紹介します。今後、さらに地域での信頼を得るべく日々努力してまいります。

高齢者住宅経営者連絡協議会では、食事サービス委員会に参加させていただきました。

参加している施設・住宅の価格帯もさまざまで、当然ながら食費も廉価から超高価まで幅広かったです。各々の範囲ですべての事業者がいろいろな工夫をされているのが、とても印象的でした。毎日のことゆえ家庭料理をベースにしたり、逆に「ハレの場」として空間も演出したり、こだわりの一品で全体の印象を上げたり、だしやお米にこだわったり、提供するサービスそのものも考えたりと、自前で食事提供されている事業者のみならず、給食業者に委託しているところも、積極的に委託先と係わることできめ細やかな工夫をされていました。

数カ月間にわたりいろいろな高齢者住宅の運営に触れていくなかで、各住宅がそれぞれのポリシーにもとづいて食事を提供していることがわかり、それが運営者として最も大切なことであることを再確認いたしました。入居者の全員を100%満足していただくことは不可能ですが、特定の入居者のクレームに右往左往するのではなく「当住宅ではこういうポリシーにもとづき、日常的にこれだけ努力している」という軸が定まらないと、対症療法的な対応になります。長期的な視点でみて、質を向上させていかなければならないと再認識いたしました。

## 中村 健太郎

なかむら・けんたろう

### ●PROFILE

株式会社キャピタルメディカ執行役員  
経営企画部部長。「クラッチ」シリーズ  
など、同社介護事業の統括にも従事している。

